

1. はじめに

新城設楽地域は有数の和牛生産地で、県全体の半数近くに当たる43戸の繁殖農家があり、その出荷先である新城家畜市場（以下市場）には、県外からも多数の購買者が訪れる。

今回、管内の代表産業を下支えするために当所が行った、1) 牛群改良を目的としたバイテク技術活用事業（以下バイテク採卵）の活用2) 優良和牛子牛増産を目的とした流死産対策、特に①牛ウイルス性下痢・粘膜病（BVD-MD、以下BVD）②異常産アルボウイルス対策について紹介する。

2. 取組み内容

1) 牛群改良を目的としたバイテク採卵の活用

県全体のバイテク採卵の約半数を管内で占め（図1）、生産された優良和牛子牛は、繁殖牛として農家保留または肥育素牛として市場出荷される。

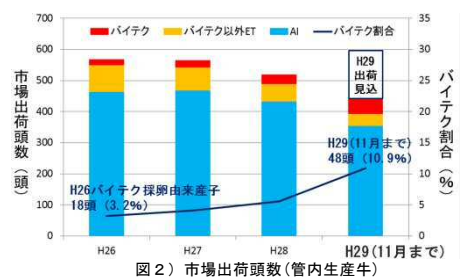
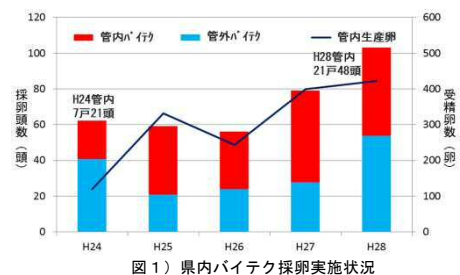
子牛登記、市場調査、和牛登録の機会を利用して、バイテク採卵由来産子の市場評価、農家保留状況を追跡調査した結果、市場出荷頭数はここ数年増加傾向にあり（図2）、価格面における優位性も示唆された。また、バイテク採卵由来産子の保留状況は、管内繁殖牛812頭中54頭（6.7%、11月末現在）であった。

2) 優良和牛子牛増産を目的とした流死産対策

バイテク採卵で生産された受精卵は、主に酪農家に借り腹移植される（図3）。管内繁殖農家のほぼ全戸で、ワクチン接種による流死産対策は行われているが、より高いレベルでの防疫を目指して以下の対策を実施した。

① BVD対策

素牛の県外導入や、借り腹の母牛を介した持続感染牛（PI牛）侵入の恐れがあるため、研修会等でPI牛の繁殖への影響や侵入リスクについて理解醸成を図り、和牛繁殖農家および借り腹酪農家49戸 1,884頭で遺伝子検査を実施し、PI牛1頭を摘発・淘汰した。



②異常産アルボウイルス対策

管内の希望農家で抗体検査を実施したところ、アカバネ病ウイルスの侵入が疑われたため、アカバネ病の主要株に対応する新ワクチンの補助を団体や市に提言し、新ワクチンへの切替えを推進した。

3. 今後の展望

今後は、分娩事故や育成期の疾病対策にも取組み、牛群改良および優良和牛子牛増産を更に進めて、農家の所得向上を下支えしていく。